

決算発表説明資料

2016年3月期

- 連結決算(経営成績)
 - 工作機械関連事業
 - 受注動向
 - 輸送機器関連事業
 - 財政状態

エンシュウ株式会社



連結決算(経営成績)

●2015年度 業績概要

減収、黒字化

売上高26,454百万円（前期比11.6%減）、営業利益556百万円（前期は160百万円の損失）と、若干未達ながらほぼ計画通りの営業利益を確保致しました。

ベトナムドンの下落等に伴う為替差損189百万円が発生したものの、経常利益は176百万円（前期は411百万円の損失）、親会社株主に帰属する当期純利益は66百万円（前期は582百万円の損失）と、黒字化を達成致しました。

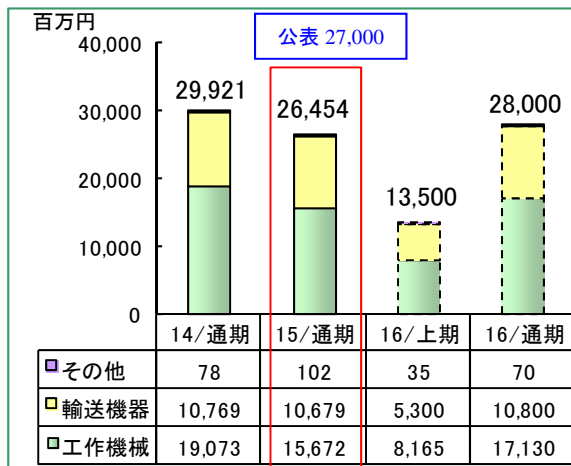
●2016年度 業績予想

黒字継続 の見通し

工作機械事業部、輸送機器事業部ともに通期増収を予定していますが、上期に関しては下期ほど売上が伸びないことから、純利益は赤字となる見通しです。通期は下期の売上、利益がともに改善することから、売上28,000百万円（前期比5.8%増）、純利益130百万円の黒字（前期比95.6%増）を予想しております。

【通期業績比較(2014~2016)】

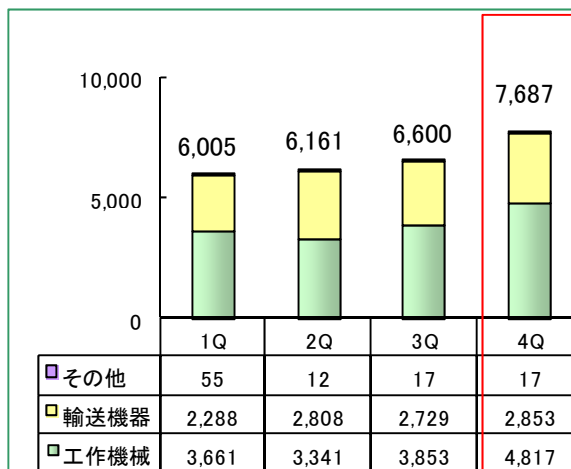
売上高



※16/上期、16/通期は予測

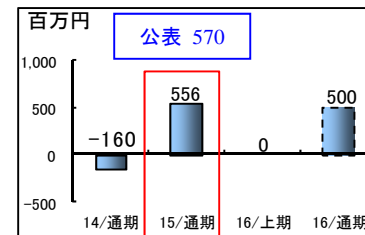
【四半期比較(2015年度)】

売上高

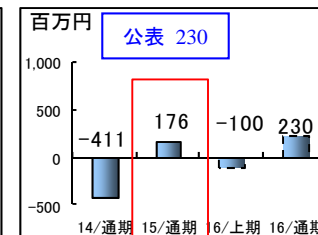


公表=前回業績予想(2/9)

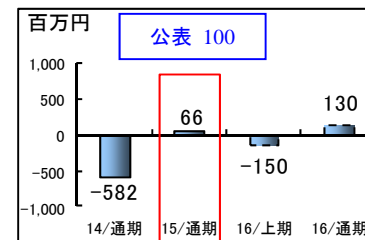
営業利益



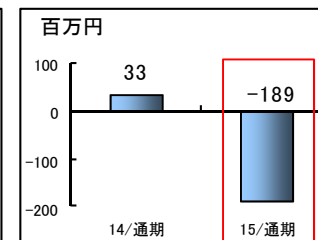
経常利益



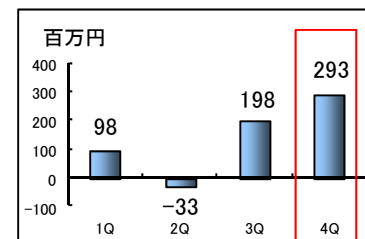
当期純利益



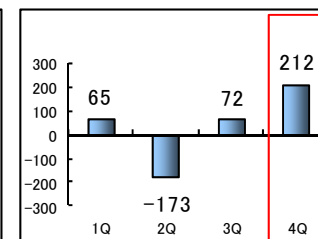
為替損益



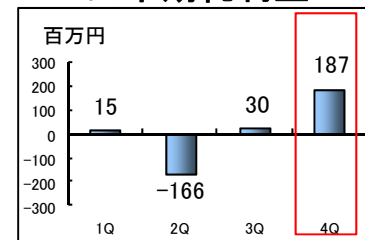
営業利益



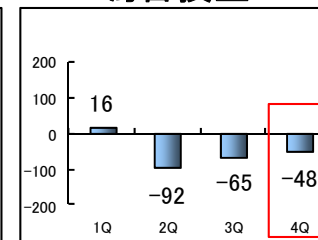
経常利益



四半期純利益



為替損益



工作機械関連事業部門(経営成績)

●2015年度 業績概要

減収、増益

売上高につきましては、中国向けを中心としたシステム大型案件は減少しましたが、中国の新規顧客開拓と国内および欧州の拡販により減少分をカバーした結果、15,672百万円（前期比17.8%減）となりました。

営業利益につきましては、コストダウンに加え、システム商品においてプロジェクト毎の採算管理を徹底した結果、345百万円（前期比127.1%増）と、増益になりました。

●2016年度 業績予想

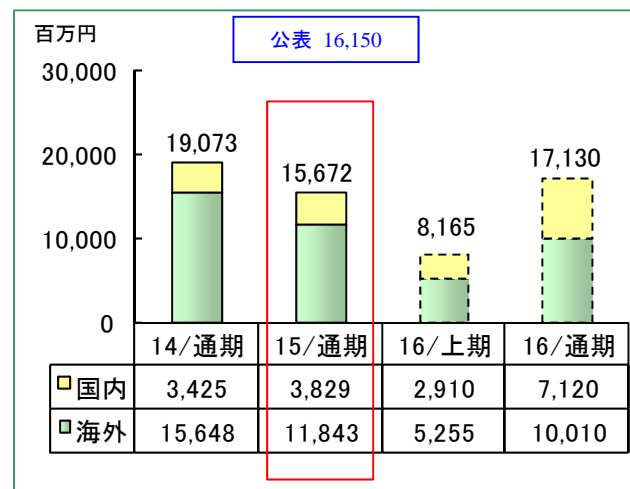
増収、増益 の見通し

中国向け案件は前期よりさらに減少する見通しですが、国内および欧米の拡販を強化していくことにより、売上高17,130百万円（前期比9.3%増）、営業利益460百万円（前期比33.0%増）と、増収増益を予想しております。

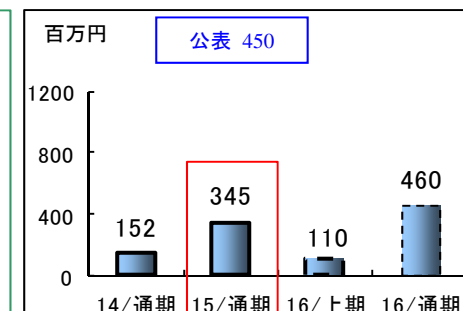
*1 システムとは、マシニングセンタと周辺機器（搬送装置、ロボット等）で構成する加エライン。

【通期業績比較(2014~2016)】

売上高



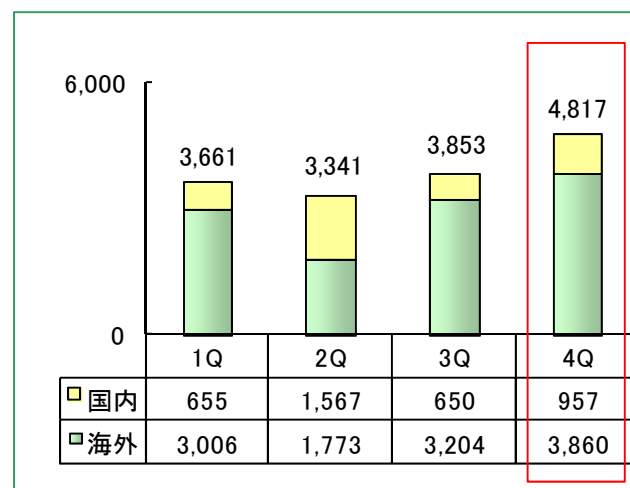
営業利益



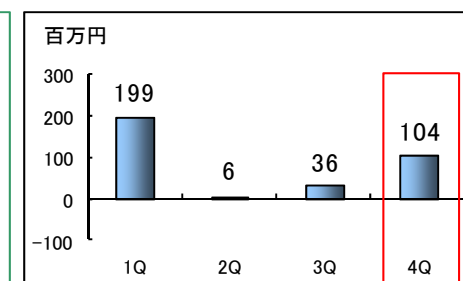
※16/上期、16/通期は予測

【四半期比較(2015年度)】

売上高



営業利益



工作機械関連事業部門受注動向

●受注高

中国向け案件の受注が減少する中、国内メーカーおよび欧米メーカーへの拡販を進めており、通期累計受注高は14,241百万円と前期とほぼ同等の受注を確保できました。

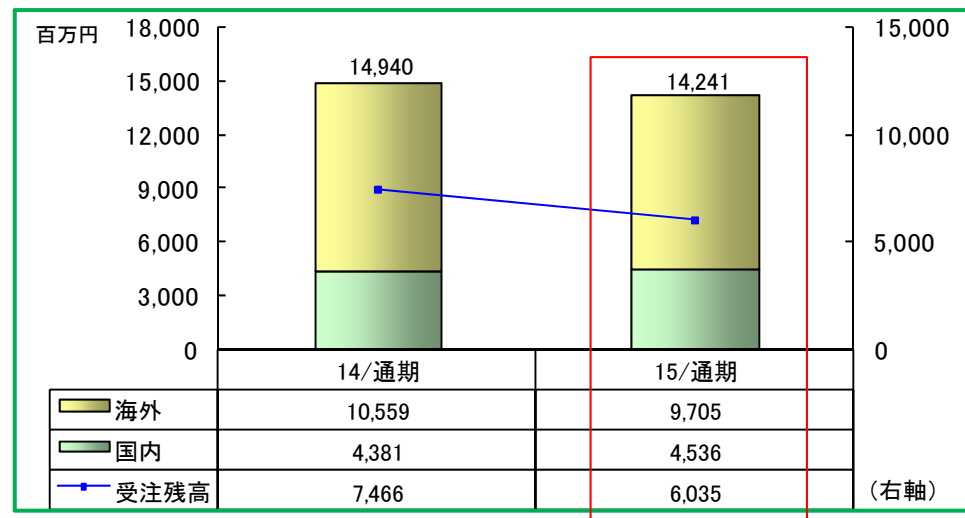
●受注残高

短納期化により受注残高は減少しておりますが、国内および欧米からの引き合いは依然強く、今後とも安定的な受注残高を維持できるものと見込んでおります。

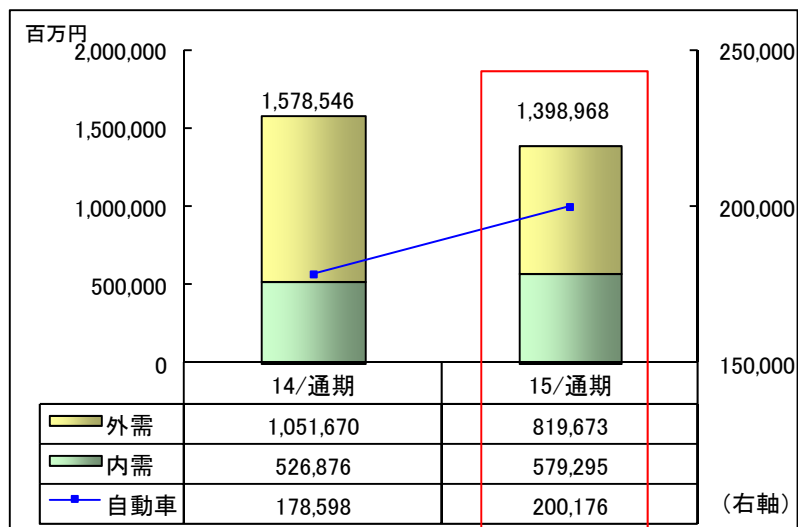
また、海外需要の情報を素早く取り込み受注できるように、中国（蘇州）、メキシコ（ケレタロ）、インド（グルガオン）に拠点を設け、海外市場の開拓、拡大に努めてまいります。

☆ 当社の受注高及び受注残高推移

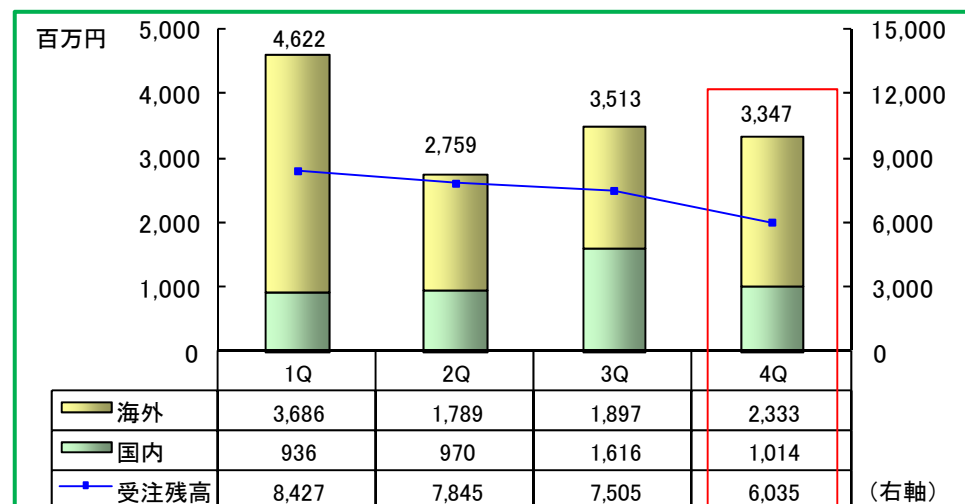
【通期比較(2014～2015)】



☆ 日本工作機械工業会受注推移



【四半期比較(2015年度)】

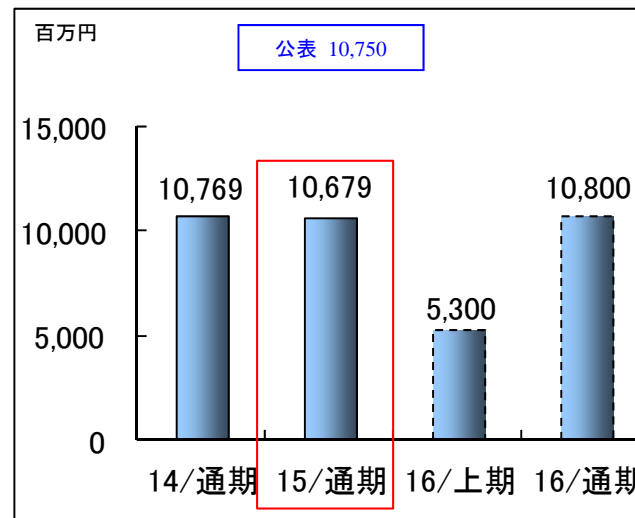


輸送機器関連事業部門(経営成績)

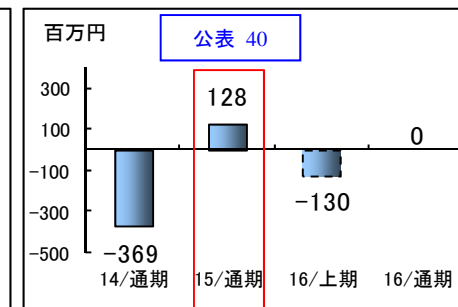
公表=前回業績予想(2/9)

【通期業績比較(2014~2016)】

売上高



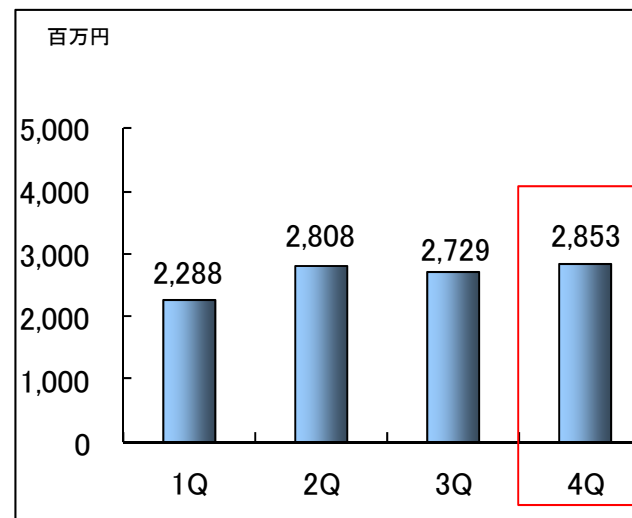
営業利益



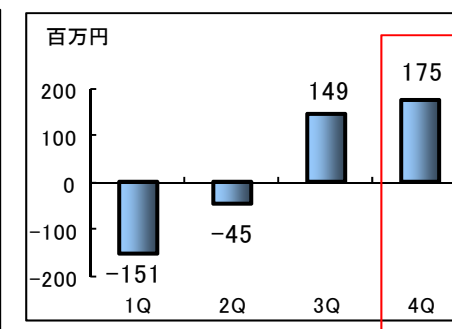
※16/上~通期は予測

【四半期比較(2015年度)】

売上高



営業利益



●2015年度 業績概要

計画通り営業利益黒字化を達成

売上高につきましては、ベトナム現地法人の売上が着実に拡大、国内も1Qは落ち込みましたが、2Q以降は高水準を維持しており、売上高は10,679百万円（前期比0.8%減）となりました。

営業利益につきましては、ベトナム現地法人の生産が軌道に乗ったことに加え、国内も損益改善施策の効果によって改善したことから、営業利益では当初計画を上回る黒字を確保しました。

●2016年度 業績予想

通期増収を予定していますが、上期は採算の厳しい案件が増える見通しであり、営業利益130百万円の損失（前期は196百万円の損失）を予想しております。通期に関しては、ベトナム現地法人の生産は順調に拡大していく見通しであり、営業利益±0百万円（前期は128百万円の利益）を予想しております。

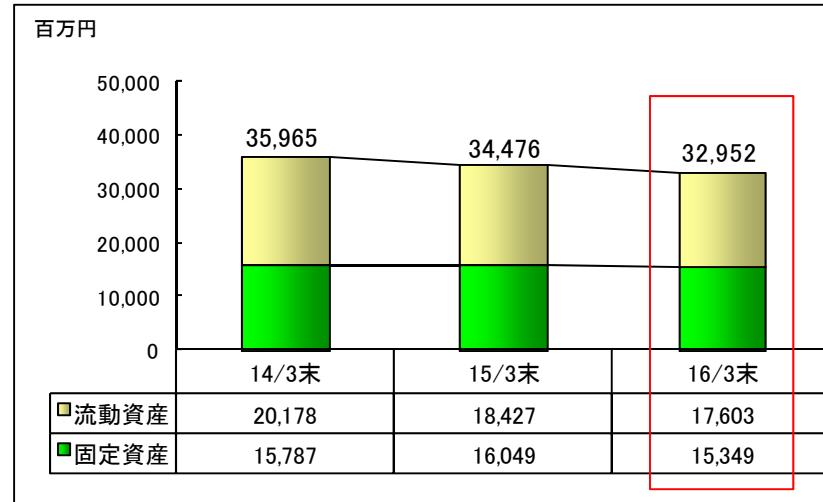
財政状態

● 財政状態

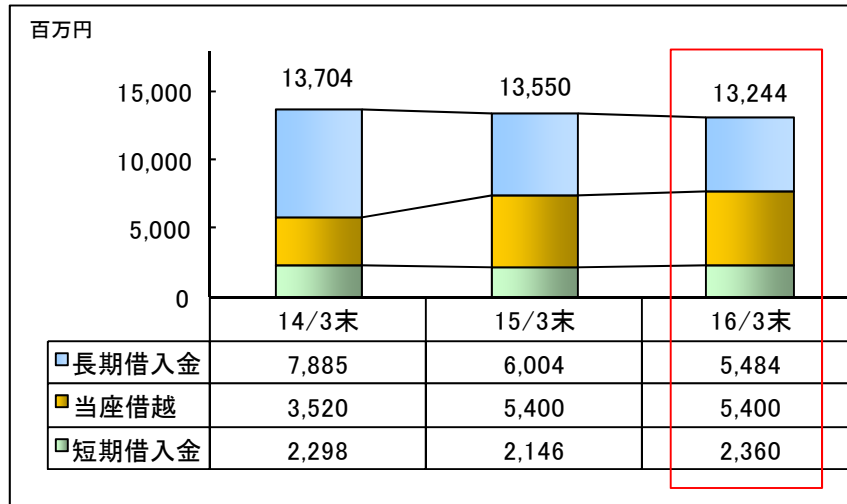
一昨年より継続しているバランスシート改善に注力した結果、運転資金の圧縮により借入金は着実に減少、総資産も圧縮されております(15/3末比▲1,524百万円)。

自己資本比率は、利益剰余金は改善しましたが、金利低下に伴う退職給付に係る調整累計額減少(△701百万円)により、0.4%ポイント減少しております。

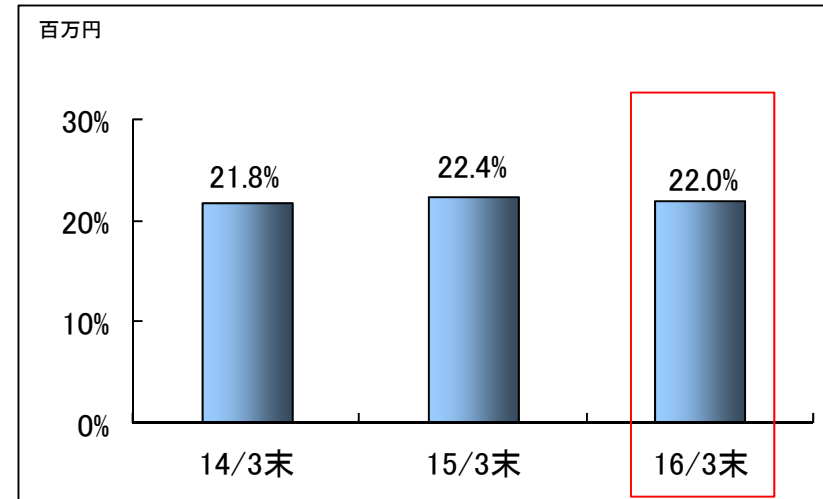
総資産



借入金



自己資本比率



中期経営計画

当社は、平成28年5月13日開催の取締役会において『中期経営計画』（2017年3月期から2020年3月期の4ヵ年）を決定いたしました。数値目標並びに目標達成に向けた施策について以下に記載いたします。

【数値目標】

中期経営計画の数値目標は、2020年3月期の連結売上高320億円、連結営業利益率5%としております。

【数値目標を達成するための施策】

中期経営計画の数値目標を達成するために、下記の施策を推進してまいります。

工作機械関連事業としては、強みであるシステム商品の提案力を更に強化すると共に、国内販売網強化により汎用機、レーザーの拡販を押し進め、海外市場においてはインド・メキシコなどに新たに拠点を設置し販売・サービス体制を強化することにより、売上拡大を図ってまいります。

また、標準化・モジュール化の更なる推進、調達力・モノづくり力の向上による原価低減と、差別化(新)技術の商品化により、システム・専用機・汎用機・レーザーのどの商品でも確実に安定した利益が確保できるよう体質強化を進めてまいります。

輸送機器関連事業としては、製品の価値をより高めることなどにより、お客様企業との垂直分業体制をより強固なものとすることや、日本とベトナム以外向け製品のより積極的な取込み活動を行うことによって売上高を拡大してまいります。

また、継続的な生産性・品質向上活動による原価低減に加え、海外工場との最適生産体制を構築することにより利益率の向上を図ってまいります。

当社グループ一丸となって各施策を推進することにより、収益性の向上や財務体質の強化に努め、企業価値の増大を図ってまいります。

注記事項

本説明資料に記載いたしました業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。